



奉仕団ニュース

社会福祉法人 日本キリスト教奉仕団

URL: <http://www.jcws.or.jp/houjin/houjintop>

第33号 2021年11月

Tel 03-3202-0486

Fax 03-3202-0487

希望を持って

理事長 わたなべ きょう 渡辺 教

この2年間、新型コロナウイルスの感染症によって緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が繰返し発せられ、山道を車で走っていて暗いトンネルをやっと抜けたかと思うとまた入る時のような、「またか」という気持ちになりました。特に2021年はほとんどが緊急事態宣言という異常に長いトンネルが続きました。そのような中、夏には東京オリンピック、パラリンピックが行われ、多くの人々がテレビでの観戦を余儀なくされていたのではないのでしょうか。これからはワクチン接種や飲み薬の普及、抗体検査やPCR検査などにより感染が終焉に向かってほしいものです。

奉仕団でも今年度上半期は、新型コロナウイルス感染症のためにイベントの中止やパン等の製造販売、レストラン事業、旅行、外出、面会等多くの活動面で制約を受けました。

座間のアガペセンターの入所施設アガペ壱番館では、ここ数年来の人手不足とコロナ感染症の予防への慎重な対応に苦慮しつつも大過なくサービスの提供を継続することができました。また「カレーキッチンサラ」ではアクリルボード等により感染対策を行いながら営業を続け、昨年よりはお客様も、少しずつ戻りつつあり、11月に開店15周年を迎えて駐車場の拡張、外装や壁紙の張替えを終えてお客様の来店をお待ちしております。アガペ作業所では企業からの外注も活発になっておりますが、外出のプログラムは未だ自粛が続いており、今後徐々に再開となるのをみんな待ち望んでおります。

アガペ東京センター板橋福祉工場のレストランモニカではテイクアウトでの対応や野菜工場の職員との交流により効率化を進めてきました。また、第二工場二階の空きスペースの活用について障がい者サークルへお貸しする等、地域貢献にも役立てております。

新宿福祉作業所のパンの製造販売は外販箇所も減少しており、またイベントの中止も多く、利用者の皆さんも早く再開されないか期待を持ち待たれています。

国立国会図書館複写受託センターの来館者は一昨年

よりは、入館制限のため減少となっておりますが、制限緩和に従い徐々に戻りつつあります。

本部のアジア研修交流事業も、2019年度から始めたミャンマーとの研修交流がコロナの感染拡大に加え2月の政情変化により今年度も実施できず、現在はモンゴルからの研修生受入を新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら実施する予定です。

2020年度の収支についてはコロナによる国会図書館の休館等による売上減少、板橋福祉工場A型事業縮小のための費用増、座間アガペセンターでの入所施設の人件費増、外壁他の補修工事費用等が重なり最終収益は前年の△33百万円から△77百万円まで低下となりました。

この中でアガペ壱番館の職員人手不足、国立国会図書館複写受託センター、板橋福祉工場の多機能施設については体質改善、収益性向上が喫緊の課題となっており、3カ年の中期計画の最終年度の2024年度までに採算のとれる体質に改善を目指しております。

これからの福祉事業は自立に向けての努力が必要となっております。収入とコスト、サービスと対価、人員と人件費、ICTの活用や機械化と職員配置など、総合的な視点からサービスの質の向上を行い利用者の方に喜ばれる施設にしていくことが必要です。

「求めなさい。そうすれば与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」(マタイ7-7) 神様を信じ強く願えば神様はその言葉を聞き入れてくださると聖書に書かれています。早くこのコロナ感染症が収まり明るい社会が来ること、未来ある奉仕団となることを、希望を持って強く願い祈りたいと思います。

これからも日本キリスト教奉仕団の活動にご理解とご支援をお願いいたします。



コロナとアガペ壺番館

アガペ壺番館 元田 勲

障害者支援施設「アガペ壺番館」は、70名の方が日常生活を営む場所です。

コロナによるアガペ壺番館入居者の生活変化は大きいものでした。それは国や県からの要請にプラスして、それを踏まえて事業所（アガペ壺番館）から「外出・外泊」「面会」等の制限が発生した為です。事業所は「命を守る」「うつらない・うつさない」事を目的に1人の感染予防だけでなく集団感染予防の為の取組となります。しかし、不要不急に関わる事情は、人それぞれで違います。その為、事業所からの制限項目には「やむを得ない事情がある場合は除く」と記してありますが、凡その入居者は「会わない（会ってはいけない）」「行かない（行ってはいけない）」選択をしました。

入居者の方から「制限を解除してほしい」「なぜ意地悪するの」等の話があった際には「解除はできませんが、やむを得ない事情の場合は行動して良いですよ」とお伝えするも「事業所として解除してないの



に、1人だけ勝手な行動はできない」と返答があり、ただただ心が痛かったです。しかし、ようやく感染者数も減少し、緊急事態宣言も解除となり、第6波の心配はありますが、アガペ壺番館も制限の緩和、解除に向けて検討・実施を行っています。

カレーキッチンサラ 15周年を迎えて

アガペ作業所 矢吹 智美

カレーキッチンサラは2021年11月20日をもちまして、オープンから15周年を迎えます。地域の一員として多くの方のご支援、ご協力のもとこの日を迎えられましたこと、この場を借りて関係者の皆様に御礼申し上げます。カレーキッチンサラは利用者が自分らしく働ける場として2006年に開設、2年後にはレトルトカレーの製造・販売を開始、6年後には座間市立市民体育館（スカイアリーナ座間）の喫茶スペースでレトルトサラの運営を開始しました。いろいろな環境での作業を用意するこ



〈カレーキッチンサラ外観〉

とで、より多くの利用者の特性に応じた支援の提供に繋がっています。昨年度はサラ本店建物の隣に4台分の駐車スペースを新設した他、外壁の補修工事を行いました。今年度は店舗内装のリニューアルを行い、来店者により快適に過ごしていただけるような空間作りを目指しています。現在、新型コロナウイルスや緊急事態宣言の影響で来店者は少なくなっていますが、感染予防対策を徹底した上でより多くの方に来店いただけるよう働きかけを行い、少しでも我々アガペセンターを知っていただく機会を増やし、地域に貢献できる施設を目指していきたいと思っております。

コロナ禍での生活

スマイル・スマイルⅡ 高田 孝行

新型コロナウイルスが流行し、利用者さんにとっての一番の変化は外出制限でした。自宅への帰省、趣味の電車での外出、遊興施設での息抜きなども制限をすることになりました。「いつになったら、お出かけできるの?」と質問がある度に、「コロナが落ち着いたらね。」「緊急事態宣言が解除したらね。」と答えることしかできず心が痛みました。

2021年10月になり、緊急事態宣言が解除されました。利用者さんのワクチン接種も二回終えたことで、感染予防対策は緩めず、県内程度からの外出や個人の生活範囲に応じて徐々に緩和をしています。

不安も多く、前向きになることができなかった期間ではありました。利用者さんの新たな生活様式への適応能力や新たな可能性を発見できたことは、これからの礎にできればと思っております。

アガペ東京センター

2021 年度上半期を過ぎ、緊急事態宣言が解除されコロナ感染症の拡大は終息に向かいつつあるように見えます。アガペ東京センターでは、公益事業として国会図書館複写受託センターのコピー業務を受託していますが、図書館という公共性の高い環境であることから感染症予防のため入場制限があり、昨年度は入館者数が減少することによるコピーのお客様が減り売りに上げに大きな影響がありました。今日まで受託センターでは、国会図書館様のご協力をいただきながら、懸命に収支改善の努力、効率化などをすすめ、運営を維持してきました。最近のお客様の増加を心強く思っている次第です。板橋福祉工場、新宿福祉作業所等、軽作業を行っている事業所では、昨年度に比べて仕事量は平年並みに近づいてきており、コロナ禍の下での日常を少しずつ取り戻しつつあると認識しています。また、ハートワークの主催する就労支援関係の会議はオンラインにより行われることが日常化してきました。

年度後半にかけて次第に寒くなる時期ですが、コロナ感染症第六波到来に対する準備も意識しながら、気持ちを引きしめて進んでいきたいと思えます。

東京都板橋福祉工場

昨年からはまった新型コロナウイルス感染拡大は衰えることもなく、2021 年に入ってから東京においては 3 度にわたる緊急事態宣言をうけ、特別な状態が日常化しています。

事業所においても年明けの成人式は縮小して開催、年度明けの入所式も縮小開催、それ以外の行事は行っておりません。作業に集中せざる得ない状況ですが、それはそれで良いようで、昨年からは取り入れた立ち作業で皆、黙々と作業に向かっています。今年度は丁合機を導入、より効率化を図り、受注担当の営業努力もあり余剰となった作業を他の作業所にもお願いすることもあります。



飲食事業の方ですが、緊急事態宣言中は昨年引き続きテイクアウトのみにし、店内飲食を止めました。昨年からは始めたコッペパンや

ラップサンドはお客様に飽きられないように常に新商品の開発に注力しつつ、屋外にパラソルやテーブル、ベンチを設置。また 6 月からソフトクリームの販売や、夏休み期間の営業時間の延長など工夫を重ねてきました。おかげさまで、屋外テーブルでソフトクリームを食べる親子の姿が多く見られるようになり、それが新たな呼び水となり、今までになかった顧客層の取り込みにつながりました。

この様な状況が長引く中、ふと思うことがあります。もし、新型コロナウイルスがここまでの猛威を振るわなかったら？

同じように行事を続けていただろうか？利用者の方達は今のように作業に集中して取り組むことが出来ていただろうか？新商品のコッペパンやソフトクリームの導入、屋外テーブルの設置はしていただろうか？いずれは取り入れていくでしょうが、このような短い期間ではなかったと思います。急な変化に対応できることはすごい事です。

コロナ過に関わらず、常に変わりゆく時代に合わせ、柔軟に進む事業所でありたいと思えます。



国立国会図書館複写受託センター

国会図書館複写受託センターには現在のところ障がい者職員 4 名を含む正職員 13 名、非常勤職員 70 名が在籍しており、法人の公益事業として国会図書館における利用者への資料複写業務全般を行っています。コロナ禍において国会図書館での運営も少なからず影響を受けております。現在も閲覧利用者が来館するためには事前申し込みが必要になるなど利用には一部制限もありますが、平日であれば 9 時 30 分～11 時まで来館いただければ予約無しで入館可能となっております。非常事態宣言解除にともない、多くの閲覧利用者が来館され活気を帯びております。同時に資料複写サービスも多くの閲覧利用者にご利用をいただいております。特に来館しなくとも国内外から資料複写が可能なサービスもあり、コロナ禍で利用が大変多くなってきております。日々コロナ禍が収束するよう願うとともに、今後も安定した運営とサービス向上のために努めて参りたいと考えております。

新宿区立新宿福祉作業所

新宿福祉作業所は就労継続支援事業B型と生活介護の多機能型事業所として、現在66名(定員75名)の方が利用されています。2007年4月から指定管理者制度による運営をしており15年目を迎えました。

現在も新型コロナウイルスにより不安な日々を過ごしておりますが、ようやくワクチン接種も始まり安心して生活の一步を踏み出せたと感じております。

未だ終息が見えない状況ですが、今後も感染症防止対策を継続し、利用者さんが楽しく安心して活動できるプログラムを提供していきたいと考えています。

とても怖い感染症ですが、感染症について理解することで予防ができることを学びました。

- ① マスクの着用、手洗いやうがいの大切さ
- ② 消毒の重要性
- ③ 相手との距離や作業時、昼食時の感染対策

感染防止について利用者さんへどうしたら理解していただき実践できるか考え、声掛けだけでなく、ポスターや絵で確認することや、ご家族様の協力や利用者さん同士でもお互いが注意することで感染に対する気付きも生まれました。

新型コロナウイルス感染症により作業内容やお客様の状況にも変化が生まれています。受注作業では、物流の下請け作業依頼が多く、バーコードのシール貼り、梱包等、今までと違う作業ですが利用者さんでもできる工程が多いので楽しく作業されています。また、ベーカリー販売では、若松河田駅構内店にてキャッシュレス決済を利用される方が多く、接触感染のリスクや早く支払いたいというニーズ、クーポンや支払いによる還元もあるため、お得に利用できることも利用者が増えてきている要因かと思えます。

昨年はInstagramやネット販売を開始しましたが、今後は社会やお客様の状況に合わせて事業所の活動も変化を求められる部分があるかと考



えています。これからも皆さまのご協力をいただきながら、利用者さんの満足度向上、そして地域の方に親しまれる作業所を目指していきたいと思えます。そして、皆

さんの健康を願うとともに、毎日を大切に過ごしていきたいと思えます。

板橋区障がい者就労支援センター

板橋区障がい者就労支援センター ハート・ワークは板橋区にお住まいの障がいをお持ちの方が、職業に就き、社会参加が出来るよう就労支援を行う事業所です。主な支援内容としては、相談、実習、就労準備、面接同行、通勤、職場適応、定着などが主な支援となっています。

新型コロナウイルスの感染が拡大してもうすぐ2年となりますが、この間多くのことが変化しました。予想以上に感染が継続し、就労の形態もいまだ感染前に完全に戻っているとは言えない状況です。しかしながら、ハート・ワーク自体の支援状況は通常に戻っており、企業様との連絡はSNS



などを使った会議などへの参加や電話での相談が多くなっています。毎年40名程度が就労され、登録をされる特別支援学校では、今年度のほうが実習に支障が出ているようで、就職先の決定が少し遅れているようです。ただ雇用率の変更等もあり、最終的には就労する方は変わりがないようです。板橋区や支援センター関連の会議では、SNSや書面開催が増え、対面を避けることが続きました。そのような中で、板橋区の実習先としても指定されている“喫茶こすもす”が今年初めより休業状態が長く続き、働いている職員さんにも休業していただき、その機能は停止していましたが、10月1日の解禁に伴い再開し、実習生の受け入れも再開しています。ハート・ワークでは通常の相談以外に、余暇活動交流会として“ボーリング大会”や仕事帰りに立ち寄れる“ひまわりトーク”なども行っています。これらの催しは今年度中止の方向性が示され、次年度以降の開催となります。企業で働く登録者の方には、このようなイベントが必要なところもあり、次年度に向けた準備を進めるとともに、再度の感染拡大が起きないように願っております。

2021年9月末現在の状況は以下の通りです。

当月末現在登録者数 1,079名

当月末現在就職者数 657名

2021年アジア研修交流事業の報告

アジア研修の対象がミャンマーからモンゴルに一時的に変更

1980年から開始されたアジア研修交流事業では、今年度は2年前から始まった「ミャンマー5か年計画」に沿って、AAR 障がい者職業訓練校の職員を招いて3週間の研修を行う予定でした。ところが、2月にミャンマー国内で政治的混乱が発生し、ミャンマーからの出入国が困難になりました。

ミャンマーで障がい者の職業訓練校を運営しているNGOのAAR Japan「難民を助ける会」の情報によると、しばらくは政府側国軍と民主派との内戦による政情不安定が続くと予想され、混乱が収まる時期を予測するのは難しいとのことでした。現在、その職業訓練校ではコロナ禍によって休校状態が続いており、卒業生の生活を助けるために現地職員によるリモート生計支援活動が行われています。具体的には、オンラインによる職業技術指導や就職斡旋相談、そして、障がい児者の家庭に救援物資を配布する作業です。そのような中で、現地職員を研修生として日本に招待することは非常に困難であると判断しました。

そこで、一時的にミャンマー以外のアジアの国から研修生を迎えることを検討しました。そして、モンゴルの障がい者福祉事業をしている団体に呼び掛けをし、研修生の募集を行いました。複数の応募者があり、その中から、ウランバートル市の「エネレル障がい者職業訓練校」でマネージャーとして働く職員を今年度の研修生として日本に招待することに致しました。

現在は、コロナ禍の影響で中断されている入国ビザの申請が再開されるのを待って、今年度中の「アジア研修プログラム」の実施に備えています。一日も早くビザ申請が解除になり、入国後の制限措置も緩和されて、日本で研修ができることを願っています。



リモートで裁縫技術の指導をする訓練校の職員
(研修待機者) (写真はAAR Japan提供)

この事業は、すべて皆さまからの寄附金や献金によって運営されています。これまでに温かいご寄附や献金をお送りくださった方々に心から御礼を申し上げます。今後ともこの事業の働きを覚えてくださり、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



障がい児者の家庭に物資を届ける職員
(写真はAAR Japan提供)

法人事務局

2020年度下半期から2021年度の法人本部の主な動きについてご報告いたします。

・理事、監事、評議員の状況について

監事の塚越 敏夫氏が2021年1月23日付で辞任されました。

その後任に後藤 省二氏が1月23日付で監事に就任(任期は、2021年6月定例評議員会終結時まで)されました。

今年度も昨年度に引き続き、理事会、評議員会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点からすべてZoomでの開催といたしました。

また、2021年6月の定例評議員会の終結時に、役員並びに評議員の任期が終了し、改選期を迎え下記の方々が選任されました。

理事長 渡辺 教 常務理事 小松田 貞利

理事 井殿 準、佐々木 章吾、園崎 秀治、

田口 努、田中 誠一、毛利 龍夫

監事 後藤 省二、西原 良信

評議員 岡谷 重雄、鹿村 洋人、小出 千鶴子

野口 美加子、宮本 和武、百瀬 一成、

山尾 研一、山田 秀樹

(他に非改選評議員が3名)

今年度も、新型コロナウイルスの影響により、法人全体での新入職員の辞令交付式は中止となりました。

新入職員研修会は、4月6日に例年のように対面で実施することが出来ました。

1. 法人の概要

名称 社会福祉法人 日本キリスト教奉仕団
 所在地 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 代表者 理事長 渡辺 教
 常務理事 小松田 貞利
 理事 井殿 準 佐々木 章吾 園崎 秀治 田口 努 田中 誠一 毛利 龍夫
 監事 後藤 省二 西原 良信
 評議員 鹿村 洋人 川浦 弥生 金井 之広 小出 千鶴子 鈴木 寛 野口 美加子
 牧 由希子 宮本 和武 百瀬 一成 山尾 研一 山田 秀樹

2. 事業の概要

①第一種社会福祉事業

・アガベ壹番館：障害者支援施設（施設入所支援・生活介護・短期入所） 神奈川県座間市小松原 2-10-14

②第二種社会福祉事業

・東京都板橋福祉工場：障害福祉サービス事業（就労移行支援・就労継続支援A型及びB型事業） 東京都板橋区高島平 9-42-7
 ・アガペ作業所：障害福祉サービス事業（就労移行支援・就労継続支援B型・就労定着支援） 神奈川県座間市小松原 2-10-14
 ・アガペサポートセンター：相談支援事業（一般・特別）「受託経営」 同
 障害福祉サービス事業（生活介護・短期入所） 同
 ・座間市障がい児・者基幹相談支援センター：支援事業所・相談支援事業所等の聴く、考える、
 学ぶ、地域ネットワーク業務「受託経営」 神奈川県座間市緑ヶ丘 1-2-1
 ・座間市立もくせい園：障害福祉サービス事業（生活介護）「受託経営」 神奈川県座間市栗原中央 6-7-27
 ・座間市サニーキッズ：障害福祉サービス事業（児童発達支援事業）「受託経営」 神奈川県座間市緑ヶ丘 1-2-1
 ・新宿区立新宿福祉作業所：障害福祉サービス事業（就労継続支援B型・生活介護）「受託経営」 東京都新宿区戸山 1-22-2
 ・スマイル：障害福祉サービス事業（共同生活介護） 神奈川県座間市相模が丘 2-32-24

③公益事業

・国立国会図書館複写受託センター 東京都千代田区永田町 1-10-1 国立国会図書館内
 ・アジア研修交流事業 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 ・アガペ診療所 神奈川県座間市小松原 2-10-14
 ・板橋区障がい者就労支援センター運営事業 東京都板橋区前野町 4-16-1
 (2021年11月8日現在)

2020年度決算概要

2020年度決算概要は以下の通りです。詳細は、ホームページをご覧ください。

貸借対照表

2021年3月31日現在 (単位：円)

資産の部		負債の部	
流動資産	589,493,812	流動負債	301,570,659
		固定負債	349,155,128
固定資産	2,118,286,500	負債の部合計	650,725,787
		純資産の部	
		基本金	53,665,544
		国庫補助金等特別積立金	1,353,759,668
		その他の積立金	163,002,794
		次期繰越活動増減差額	486,626,519
		純資産の部合計	2,057,054,525
資産の部合計	2,707,780,312	負債及び純資産の部合計	2,707,780,312

資金収支計算書

2020年4月1日～2021年3月31日 (単位：円)

勘定科目	決算
事業活動収入計	1,753,551,482
事業活動支出計	1,785,960,634
事業活動資金収支差額	△ 32,409,152
施設整備等収入計	16,523,884
施設整備等支出計	51,109,980
施設整備等資金収支差額	△ 34,586,096
その他の活動収入計	82,192,427
その他の活動支出計	27,723,334
その他の活動資金収支差額	54,469,093
当期資金収支差額合計	△ 12,526,155
前期末支払資金残高	316,542,224
当期末支払資金残高	304,016,069

事業活動計算書

2020年4月1日～2021年3月31日

(単位：円)

勘定科目	決算
サービス活動収益計	1,747,558,014
サービス活動費用計	1,824,925,589
サービス活動増減差額	△ 77,367,575
サービス活動外収益計	5,993,468
サービス活動外費用計	6,385,262
サービス活動外増減差額	△ 391,794
経常増減差額	△ 77,759,369
特別収益計	8,122,049
特別費用計	8,752,756
特別増減差額	△ 630,707
当期活動増減差額	△ 78,390,076
前期繰越活動増減差額	537,883,321
当期末繰越活動増減差額	459,493,245
基本金取崩額	0
その他の積立金取崩額	38,707,692
その他の積立金積立額	11,574,418
次期繰越活動増減差額	486,626,519